

科目名	ビジネスプラン					
学科	社会環境学科		開講学年	記載の必要なし	開講学期	記載の必要なし
科目区分	選択		単位数	記載の必要なし	授業形態	記載の必要なし
担当教員（カナ）	福岡 太郎（フクオカ タロウ）		研究室	記載の必要なし	教職課程	記載の必要なし
E-mail	記載の必要なし		実務経験	記載の必要なし		
キーワード	事業計画書、市場調査、事業戦略、STP分析		関連リンク	記載の必要なし		
授業概要・目的	経営コースにおける基礎的知識として、ビジネスプラン（事業計画書）の作成を通じて、事業活動を展開していくための一連の経営活動に必要な知識を修得する。本講義では、新たな事業を企画・実行するために必要なプロセスについての実務知識を学び、実際に魅力的な新規事業の企画立案・策定の実務知識の修得を目的とする。（教職科目） 実務関連：金融業での企画業務の実務経験を踏まえ、実務上特に必要な知識の修得を考慮した内容としている。					
DP	共通コンピテンシー		関与度（％）	達成目標		
DP1	A	幅広い教養				
DP1	B	専門知識・技能	40	資金調達を可能にする事業計画書の作成に必要な経営実務に関する専門知識を修得し、それを活用できるに株なる。		
DP2	C	ライフデザイン力				
DP2	D	メタ認知・実現力				
DP3	E	グローバルマインド				
DP3	F	未来構想力	60	社会のニーズを的確に捉え、先駆的にビジネスとして新たな付加価値を創造できるようになる。		
DP4	G	デジタル力				
DP4	H	発信力				
			授業内容（＊はAL実施）		授業外の学修内容	
授業計画			1. 事業計画書を作成することの目的と意義 2. 事業計画書に必要な項目について整理する。※ 3. KJ法によるアイデアの創出※ 4. 概算による採算性・実現性にもとづくスクリーニング※ 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.		各回の受講にあたって、次回のテーマについて内容を調べて整理しておくこと。 あるいは予習課題に取り組むこと。（各回2時間程度） 各回、受講後に課題を提出し、授業で作成進捗した内容を中心に理解を深めておくこと。（各回2時間程度）	
ICTの活用			エクセルで事業計画書のフォーマットでの作成および市場データの分析、課題提出に使用。			
BYOD（学生所持ノートパソコン）の活用			授業で個人パソコンの使用を推奨します。			
教科書			山田英夫（2014）『異業種に学ぶビジネスモデル』日経BP			
参考書			平井孝志（2025）『成果を生む事業計画のつくり方』日本経済新聞社			
履修に必要な知識・能力			経営学およびマーケティングの知識、データ分析の能力			
関連科目			経営戦略論、マーケティング論			

※実務経験がある教員の担当科目は、実務関連科目としての扱いとなります。その場合の表記で記載例が作成されています。

※関与度は、合計100%になるように設定し、最低20%以上で設定。

※授業内容は、各回のテーマについて具体的に記載し、AL型授業とする場合は、最後に※印を付す。

成績評価方法						
評価方法	理解度確認テスト		小テスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	その他
評価割合（％）	40					
成績評価の留意点	全ての講義に出席することを前提とし、事業計画書および事業計画プレゼンのコンペで評価します。					
DP1	A					
DP1	B		40			
DP2	C					
DP2	D			60		
DP3	E					
DP3	F					
DP4	G					
DP4	H					

履修上のアドバイス	授業内容を理解するには、新聞やニュースで時事問題に関心と理解を深めることが重要です。そのためにも、毎回の授業において、時事問題（最新のトピックス）の紹介と解説を行うので、予習と復習の時間（各々2時間）を確保して、授業で分からなかった箇所は 早目に解決し、併せて次週の講義内容について事前に確認すること。
オフィスアワー	記載の必要なし
昨年度の授業アンケート集計結果	記載の必要なし